



第445号 2024年6月 名古屋教区広報部 電話(052)935-2223 FAX(052)935-2254 news@nagoya.catholic.jp

教区設立100年後の課題

AGIFTを告げに出ていこう！ 次世代に信仰をいかにつなぐか？ 「隔ての壁」を壊し「新しい人」になろう

教区ホームページ

福音のひびき

6月の説教者 2日 キリストの聖体 早川 和彦 (押切・小牧・守山教会) 9日 年間第10主日 ベラルタ・アンヘル・ジュニア・ベリス (三河センター) 16日 年間第11主日 ビリス・ブレット・ジュード (豊橋教会) 23日 年間第12主日 早川 努 (津島愛西教会) 30日 年間第13主日 伊藤 大有 (東山教会)

9年ぶりのアド・リミナの旅

教区司教 松浦悟郎

今年、4月8日より13日までの6日間、私たちカトリック日本司教団は全員でアド・リミナのためにバチカンを訪ねてきました。アド・リミナとは、正式にはラテン語で「アド・リミナ・アポストロルム(使徒たちの墓所へ)」という意味で、いわゆる、聖ペテロと聖パウロのお墓訪問、そして使徒の後継者である教皇と会うことです。



教皇フランシスコとの会見

基本的には、5年に一度ですが、今回はコロナ禍もあり9年ぶりの訪問となりました。ローマ滞在の一週間の間に教皇と会い、そしてお墓参りということで聖ペテロと聖パウロの大聖堂でミサを捧げました。他の日にはバチカンの各担当部署、たとえば典札やシノドス事務局、バチカン放送局、社会系の省庁などを全員で訪問し、それぞれの固

有の問題についていろいろ話し合いました。私は、ヨハネ・パウロ二世、ベネディクト16世、そして教皇フランシスコが2回目なので、合計4回目のアド・リミナになりました。思いだすのは、前回2015年のアド・リミナの時、福音宣教師を全員で訪問した際に、その長官であるフィロニ枢機卿から別室に呼ばれ、「教皇フランシスコはあなたを名古屋教区司教に任命しました」と告げられたことです。当時、大阪教区の補佐司教だった私はその時、これから名古屋教区の司教として働くのだというのを身の引き締まる思いで受け止めたことを今でも覚えています。 これまでのアド・リミナでは、すべての教区司教が教皇と一対一で会って話す形式でしたが、教皇フランシスコになってからは、個人で会うのではなく司教団全員とゆっくり話すという形に変わりました。司教団は、今回も日本の状況について報告し、教皇に自由に質問し、教皇も日本の教会についていろいろ尋ねられるなど、1時間以上にわたってとても有意義な対話がなされました。日本司教団の会長である菊地功大司教は司会をつとめました。冒頭のあいさつで、能登半島地震に際して教皇がお見舞いのメッセージを送って下さったことに触れて下さったので、私は名古屋教区を代表して教皇に感謝の意を伝えることができました。続いて、2019年の教皇訪日のお礼とその後の状況について報告がありました。教皇訪日によって、日本のメディアもカトリック教会の動向について取り上げるようになったことや、翌年からのパンデミックによって教皇のメッセージを活かせなかつたので、今年目標の一つに再度取り上げたいということ、また、日本の神学校が再び一つになったこと、日本の教会には多くの移住者がいるなど、いろいろなトピックスが日本側から報告されました。印象に残っているのは、沖繩のウエイン司教が、「教皇は平和についていろいろメッセージを書いてくださって感謝しているが、戦争するため基地の問題については触れていないので沖繩のことも含めてぜひ触れてほしい」と伝えました。教皇は、「あなたはとて

カリタスのとサポートセンタースタッフ募集とボランティア募集について

カリタスのとサポートセンター スタッフ募集について カリタスのとサポートセンターは、令和6年1月1日に発生した能登半島地震災害の支援のため、宗教法人カトリック名古屋教区の支援団体として設立された。カトリック金沢教会を拠点とし、同敷地内にサポートセンターを開設、七尾市には、ボランティアベースを設置し、全国からボランティアを受け入れ、七尾市や輪島市において物資支援や断水地域での生活用水及び飲料水の支援、食事提供や社協との連携による支援活動を行っている。 今回は、サポートセンターにおけるコーディネートや各種事務業務、ボランティアベースの運営等を担ってくださる方を募集する。カリタスのとサポートセンターでは現在、被災地での物資支援や、断水地域への水支援、社協災害ボランティアセンターの行う支援活動へのボランティア派遣、ボランティアを受け入れるベースの運営などを行っている。

- 就業時間：原則9:00-17:00 (12:00-13:00は休憩) 実働1日8時間 ※活動によっては時間の変動あり。フレックスタイム制あり
●就業日・休日：週5日勤務(月曜日定休、祝日、夏季休暇・お盆・年末年始休暇あり)
●給与・待遇：カトリック名古屋教区の就労規定に準じる 社保完備、交通費・住宅手当(応相談)
●募集人数：若干名
●申込方法：カリタスのとサポートセンターにメールまたは電話で問い合わせしてほしい。その後、履歴書をサポートセンターまで郵送いただき、面談させていただきます。 ※事前に現地ボランティアに参加して下さると、活動内容をよりご理解していただけると思う。
●問 合 先：カリタスのとサポートセンター 〒920-0962 金沢市広坂1-1-54 カトリック金沢教会内 電話：070-1220-7495 E-mail: noto.saposen@gmail.com (定休日：月曜日)

- 雇用形態：期間業務職員(災害支援実施期間限定)
●職務内容：表記の勤務地について「勤務地」をご覧ください。
1. 事務局スタッフ：カリタスのとサポートセンターの活動コーディネーターとして、ニーズ調査、活動全般の調整、諸団体との調整、ボランティア活動の調整など…「勤務地①」
2. ベース運営スタッフ：ボランティアベースの運営スタッフとして、施設の管理、ボランティアの送迎など…「勤務地②・③」
●応募条件・経験(職務内容共通)：
1. 必須スキル
・普通自動車免許(運転可能なこと)、MTなお可
・基本的なPCスキル(Word/Excel/Powerpoint等)
2. 歓迎スキル
・被災地支援業務経験
・マネジメント業務の経験
・プロジェクトマネジメント経験
3. 求める姿勢
・当団体の目的に賛同し、積極的に支援活動に参画する意思があること
・心身ともに健やかであること
・文化や習慣を尊重し、周囲と良好なコミュニケーションをとり、業務遂行できること
●契約期間：1年間(更新可能)、開始時期応相談
●試用期間：3か月(労働条件は雇用時と同等)
●勤務地：石川県能登半島を中心とした地域
①カリタスのとサポートセンター：石川県金沢市広坂1-1-54
②カリタス七尾ベース：石川県七尾市南藤橋町子部59
③カリタス羽咋ベース：石川県羽咋市千里浜町130-4

ボランティア募集について

最近の能登半島の詳しい状況では、初期の頃と災害地の状況が変わってきて受け入れ体制も整ってきたことに伴い、新たなボランティアの募集を要請した。内容も以前のものとは変わってきているので、主な内容を下記のように記した。この呼びかけに多くの人々が応え、参加してくれるように願っている。 【主な内容】
1. 活動範囲は七尾市とその周辺、輪島市。活動範囲が広がることに伴い、これまでの条件(軽トラックが運転できる人など)に限らず募集する。
2. ボランティアは(5/25から再開)は週一回、金曜から日曜までの2泊3日(1泊は不可)。但し、団体・グループの受け入れは、火曜日～金曜日。
3. 団体・グループに限って高校生の受け入れを始める。
4. 宿泊場所は、基本的に一般ボランティアは男女ともに七尾ベース(教会)、団体・グループは羽咋ベース(教会)。
*詳細、申込については「のとせんブログ」参照(カトリック名古屋教区ホームページの「能登半島地震」から「外部ブログ」に入る)。センター長の片岡義博神父の動画説明あり。 「のとせんブログ」のURLは次の通り：https://notosen.blogspot.com

東山教会献堂60周年ミサ



東山教会は本年4月29日に献堂60周年を迎えた。その記念ミサが4月28日に松浦悟郎司教を迎えて捧げられた。説教で司教は、各小教区において祝われる周年祝賀に「宣教・創立・献堂」があるが、それぞれの違いから「教会とは何か」を考へるよう促された。また、私たちが最も大切にすべきは「主の目を祝うこと」であり、ミサや秘跡を通して主イエスと直接出会うこと、それは信仰の中心・原点である」と話した。

ミサ後には聖堂で記念撮影が行われた後、ホールで祝賀会が催され多くの参加者で喜びを分かち合った。

ここで少し、東山教会の歴史に触れておきたいと思う。東山教会の前身である千種(今池)教会が献堂されたのが1930(昭和5)年であるが、1945(昭和20)年の空襲で聖堂が焼失。1951(昭和26)年に千種区本山町に聖堂が建設されるまで聖堂を持たない「仮教会時代」を過ごした。この聖堂の献堂と時代を同じくして、教会の名称が「東山教会」と改められた。その後、信者数が増加し手狭になったため、1964(昭和39)年に現在の場所に聖堂が建てられた。親やそのまた親の世代が千種教会時代に在籍していたり、自身も本山の頃から在籍しているという信徒が少なからず居ることを思うと、教会の歴史の重みや先人達の厚い信仰を感じずにはいられない。

また、献堂された1964年にはどのようになされたか、来事があったのか、も振り返ってみたいと思う。この年の秋、日本では東京オリンピックが開催され、東海道新幹線の開業など五輪開催に伴うインフラ整備が相次いで進められた。カトリック教会でも関口教会(東京大司教区)が献堂されるなど、日本各地で聖堂の建設が盛んな時期であった。また、第二バチカン公会議の第3会期が開かれていたことも大きな出来事であろう。こうしてみると、実にパワーがみなぎる時代の姿が見えてくる。

私たちは今日献堂60周年を祝ったが、カトリック教会を取り巻く環境は安寧とはいえず、東山教会も例外ではない。60年前に公会議で刷新が図られたように、私たちは今シノドスを通して考え、実行に移す機会を得ている。建造物である教会堂(聖堂)のみならず、キリストの体である私たち一人ひとりが自分の信仰を確かなものとし、次の世代に繋いでいかなければならない。その思いを新たにしたい。

中根ひろみ

「樹の会」支援金贈呈式実施



名古屋教区カトリック女性の会「樹の会」では、活動を応援している「かけこみ女性センターあいち」・「岐阜ダルク女性ハウス」のために支援金が得られるよう、今年もカトリック女性団体連盟(日カ連)の「いのちを守る運動基金」へ申請し、それが通りましたので、4月9日(火)それぞれの代表をお招きし委託された支援金各20万円の贈呈式を行い、謝辞を受けるとともに各施設の現状をお聴きしました。以下は、その折のお話の一部ですが、教区の皆様とも分かち合いたく記事にいたしました。

●「かけこみ女性センターあいち」
夫やパートナーからのDVを受けている女性から虐待を受けているケースが殆どである。ある大学生が、親から逃れるためにマンズリーマンションを借りたが、保証人が必要との問題があって困っているとの相談してきた例がある。

●「岐阜ダルク女性ハウス」
DVを受けた女性から虐待を受けているケースが殆どである。ある大学生が、親から逃れるためにマンズリーマンションを借りたが、保証人が必要との問題があって困っているとの相談してきた例がある。

●「かけこみ女性センターあいち」
DVを受けた女性から虐待を受けているケースが殆どである。ある大学生が、親から逃れるためにマンズリーマンションを借りたが、保証人が必要との問題があって困っているとの相談してきた例がある。

●「岐阜ダルク女性ハウス」
DVを受けた女性から虐待を受けているケースが殆どである。ある大学生が、親から逃れるためにマンズリーマンションを借りたが、保証人が必要との問題があって困っているとの相談してきた例がある。

【金沢教会】

「浦上四番崩れ」

明治初期に「浦上四番崩れ」で金沢・大聖寺に50人のキリシタンが流配された。その偉功を偲ぶミサが4月29日に記念碑の建つ卯辰山で松浦悟郎司教の主司式で行われた。

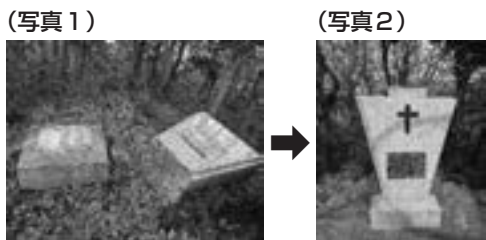
今年には記念碑が1月の能登半島地震で倒壊してしまいましたが、お陰様で記念ミサには修復が間に合った。(写真1→写真2)

松浦司教は「彼らが過酷な中で信仰を生きる

タンもその中に含まれて一緒に記念することが出来るという意味で、この運動は非常に重要である。教会が、苦難の中でも信仰を生き、人々のために福音を告げる技を生きてきた歴史を学びながら力強い教会の歩みを今後も続けていきたい。」と力強く話された。

ミサ後には、初めて実際に流配された場所(記念碑より約200m離れた)である薬湯施設「湯坐屋」跡に訪問して祝福を行い、先達の信仰に思いを寄せて感謝の祈りを捧げた。

(※ミサはYouTubeにて配信中。検索ワード「卯辰山殉教者ミサ2024」)



倒壊した殉教者碑

名古屋に流配された

浦上キリシタンを偲んで

浦上四番崩れによって、多くの浦上キリシタンが日本各地へ流配されたが、名古屋地方へも37人が流されている。名古屋市東区でも浦上キリシタンを偲んでミサが捧げられた。

はじめに司式者の浅井太郎神父(殉教者顕彰委員会委員長)は、このミサを流配者のためだけに、能登地震の被災者



も同じ苦しみの中にいることを思い、共に捧げた意向を告げた。

浅井神父はミサの説教の中で、名古屋へ流された浦上キリシタンたちの様子を資料に基づいて紹介し、信仰の有り方について話した。

「名古屋に流された信徒たちは拷問に、ほとんども転んでしまう。しかし表面は寺受け制度に従って改宗したようにみせても、良心の呵責に責められ不安になり、後に改宗を取り消す者が続出していった。何とかして告解したいと、厳しい監視の目を盗んで大阪のフランドル人神父の元へ行ったという資料が残っている。例えば津和野に流された信徒たちは、絶対に

転ばないという堅固な信仰が語られているが、名古屋ではそれは対照的にすぐに転んでしまう弱さがある。だからこそ「救済の秘跡」があり、私たちは安心できるのではないかと。たとえ転んだとしても、信仰はその人の心に深く残っていて、ペトロのように改心のチャンスは訪れ、信仰は復活する。そんな弱さの中にこそ、キリストは共にいて下さり、働いて下さっている。」

最後に、日本全体は難しい環境に置かれて、今は信仰の面でも冬かもしれないが、必ず春はやって来る。苦しい中でも置かれた場をなすことをなしていきましよう、と挨拶しミサを終えた。

名古屋教区典礼研修会

「みんなで典礼を歌う」

2024年4月29日 典礼を歌う」と題して名古屋教区典礼研修会を南山教会大(昭和の日) 山大学教員のヤコブ・ラ



イチャーニ神父(神言会)を講師に招き、開催された。開催された100名ほどが参加した。聖歌を学ぶ機会として準備したが、従来の典礼音楽研修のようにボイストレーニングなど技術を鍛錬する場ではなく、その基礎となる概念を学ぶ場とした。

初めの祈りとして典礼聖歌5番「あなたのかさ」を皆で歌って、講話を拝聴した。目で観ても解り耳で聴いても解りやすいようにプロジェクターが使用され、宗教音楽と世俗音楽に大別し、とりわけ典礼音楽は神のため、ミサのため、聖務日課のために歌われるもの、祈りの源であり祈りの延長、祈りを包むものなど、分かりやすい言葉を使い、ユーモアを交えた講話だった。聖なる音楽、聖歌とは「聖なる一すなわち神のために分けられていることが説明され、次に古代、中世、近代、現代に続く概念の変化やパチカンの指針、グレゴリオ聖歌の成り立ち、歌が教育の役割を担っていた歴史を興味深く学んだ。また典礼音楽の特徴として、「人の声」が「息を使った楽器」であるとは言え、ただ音を出す楽器ではなく、様々な感情を含んで祈りを促す力を持った「み言葉」を奏する性質がある事も教えられた。典礼音楽の在り方については、更に聖務日課にも触れ、「寝る前の祈り」の後に奉げられる聖母賛歌、特にこの時期に歌われるレジナ・チェリを講師自らが歌われた。式次第とミサ曲、固有文(入祭、詩編、奉納、拝領など毎回変わる部分)で成り立つミサについて、典礼音楽がミサそのものに密接につながっていることを再確認できた。ミサの中で歌が歌われるのではなく、ミサを歌うという事、まさに「典礼を歌う」である。「閉祭の歌」についても、散会の宣言「行きましよう、主の平和のうち」に対する「神に感謝」でミサは終わり、式次第にも歌としての指示はないと説明された。また、「続唱」がそう呼ばれる事についても、現在のミサで歌われるときは「続唱」に続いて「アレルヤ唱」が歌われる形が一般的だが、本来は「アレルヤ唱」の後、その日の典礼をより理解しやすくするために、続いて歌うから「続唱」だと話された。更に沈黙の大切さについても、沈黙があったこそ音楽であることも教えられた。参加しているオルガニストや普段聖歌隊で歌っている受講者に向けてのアドバイスもあり、講話の中で実際の音源をサンプルとして聞くことができたことも印象的だった。予定時間を過ぎたが、とても充実した内容だった。最後に典礼聖歌37番「しあわせな方マリア」を捧げ、閉会した。

名古屋教区典礼委員

ミカエル新内飛鳥 (南山教会)

ウクライナの復活祭礼拝

日本ウクライナ文化協会理事 長



もつてのほかなこと イナへの根拠のない侵襲に、ロシア軍のウクラ略は、ロシア正教会によって支持されていた。ロシア正教会はウクライナでの戦争を「聖なる戦争」と呼んでいる。一方、今年4月、欧州評議会は、ロシア正教を「ロシアの政治的プロパガンダ、及び影響力の手段」と見て、その総主教キリルを戦争犯罪の共犯者と認定した。ウクライナに居住している正教会の信者の大多数は、ロシア正教会を離れたのは、こうした理由によるものだ。2019年にエキュメニカル総主教庁は、ウクライナ正教会の自治を承認し、現在のウクライナでは、正教会信者の約75%がウクライナ正教会に属している。

しかし今年5月5日、神様の慈しみのおかげで、韓国在住のエキュメニカル総主教庁の韓国主教区所属のウクライナ人のロマン・カウチャー司祭とともに、東方典礼

「祈りを深める研修会」

：キリスト者の祈り

名古屋教区での新しい試みとして、イエズス会無原罪聖母修道院(東京都練馬区)で定期開催されている「祈りを深める研修会」が、復活節第3週の4月20日(土)に主税町記念聖堂で開催された。第一回目の研修会には、スタッフを含む約30名が参加した。

鈴木隆さん(イエズス会)が司会を務めた。研修会では、鈴木隆さん(イエズス会)が「祈り」を深めることについて自由に分ち合っている「祈りを深める」ことについて、互いに「聴くこと」から祈りの生活を振り返ること、自己の祈りを意識化することを取り組んだ。

お昼休みを挟んで、午後は、二度目の分ち合のセッションでグループ毎に一日の実りを発表し、講義とは違い、祈りが神と過ごす時間であることを体験的に学ぶこと。直に「祈り」を意識することの必要を再確認した。

鈴木氏は、キリストに倣う共同体は祈りを大切にしていくという。更に、「私たちは日常生活を神と共に生きているか、神との対話である『祈り』が呼吸のように自然に行われているか」と問われ、自分の内面を明確にすることが、キリスト者として祈りを深めることと話し合った。

この研修会のプログラムを通して、祈る時の心の動きを意識し言葉に表すことから、一人ひとりに神に向かう祈りの段階や深さがあることも共有できた。

「祈り」は、日常の出来事や出会いを通して、神から受けた恵み「愛」に気付く、神と親しく語り合い生きていくキリスト者の生活そのものであることを学ぶ機会を得て、閉じかけていた何かから解放されたような爽やかな明るい気持ちになった。

研修会のねらいは「心の姿勢」を明確にすることにある。神の前に立ち、神に心を向け、自己の深い意識を探りながら神の愛の中で生きる力をいただいた。洗礼によって神の子となった私たちは、どのように祈り何のために祈るのかを、深く考えさせられ、思いがけない回心という恵みを受けた一日となった。神に感謝。

(参加者寄稿)

中世古楽コンサート

中世に使われていた古楽器を使って当時の教会音楽を演奏するコンサートが、東山教会で4月21日に行われた。このコンサートを聴いた方が感想を寄せた。

「中世ヨーロッパのマリア讃歌」コンサートに参加して

東山教会 村田久美子

普段からクラシック音楽などに接する機会のない私でしたが、このコンサートのお知らせを聞いたときに「中世ヨーロッパ、古楽器で奏でられる最初の曲を聴いたとき、あの正直な印象は、あれ？ヨーロッパというより、トルコやアジアの音楽みたい」でした。私の印象は当たらずとも遠からず、演奏で使っている楽器はアルメニアなどで使われている管楽器だったのでした。そして、その遠いコーカサスの国、アルメニアはなんと、キリスト教を国教とした最初の国だったこと！

演奏のみならず素晴らしいに気が付き、神と親しく語り合い生きていくキリスト者の生活そのものであることを学ぶ機会を得て、閉じかけていた何かから解放されたような爽やかな明るい気持ちになった。



「中世ヨーロッパのマリア讃歌」コンサートに参加して

東山教会 村田久美子

普段からクラシック音楽などに接する機会のない私でしたが、このコンサートのお知らせを聞いたときに「中世ヨーロッパ、古楽器で奏でられる最初の曲を聴いたとき、あの正直な印象は、あれ？ヨーロッパというより、トルコやアジアの音楽みたい」でした。私の印象は当たらずとも遠からず、演奏で使っている楽器はアルメニアなどで使われている管楽器だったのでした。そして、その遠いコーカサスの国、アルメニアはなんと、キリスト教を国教とした最初の国だったこと！

演奏のみならず素晴らしいに気が付き、神と親しく語り合い生きていくキリスト者の生活そのものであることを学ぶ機会を得て、閉じかけていた何かから解放されたような爽やかな明るい気持ちになった。

(祭) 祭日(祝) 祝日(記) 記念日

6月の教会暦

- 1日(土) 聖ユスチノ殉教者(記)
2日(日) キリストの聖体(祭)
3日(月) 聖カロロ・ルワンガと同志殉教者(記)
5日(水) 聖ボニファチオ司教殉教者(記)
7日(金) イエスのみ心(祭)
8日(土) 聖母のみ心(記)
9日(日) 年間第10主日
11日(火) 聖バルナバ使徒(記)
13日(木) 聖アントニオ(パドバ)司祭教会博士(記)
16日(日) 年間第11主日
21日(金) 聖アロイジオ・ゴンザガ修道者(記)
23日(日) 年間第12主日
24日(月) 聖ペトロ使徒座への献金
28日(金) 洗礼者聖ヨハネの誕生(祭)
29日(土) 聖イレネオ司教殉教者(記)
30日(日) 聖ペトロ 聖パウロ使徒(祭)
30日(日) 年間第13主日
7月の主な教会暦(主日・祭日など)
7日(日) 年間第14主日
14日(日) 年間第15主日
21日(日) 年間第16主日
28日(日) 年間第17主日

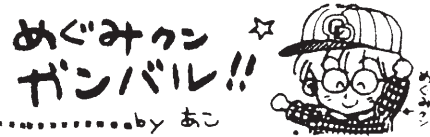
教区行事予定 (* 松浦司教)

- 6月
1日(土) 信徒協役員会
2日(日) 宣教師評議会*
8日(土) 典礼委員会コアミーティン

- 9日(日) グ/殉教者委定例会/信徒使徒職大会*
11日(火) 港教会献堂60周年記念ミサと堅信式*
12日(水) 樹の会/正義と平和委定例会
13日(木) カリタス福祉委員会
15日(土) 松浦司教着座記念日
16日(日) レジオ・マリエ
16日(日) 「名古屋クリア黙想会」
18日(火) 愛岐B会議
20日(木) カトリック看護協会例会
20日(木) 司祭・助祭研修会*
22日(土) 司祭・助祭研修会*
23日(日) (南山学園研修センター)濃尾B会議
26日(水) 守山教会堅信式*
27日(木) のと視察、のとなサポート会議*
27日(木) 司祭評議会*
30日(日) 一粒会の集い*
(東海地区南山教会)

- 20日(土) レジオ・マリエ「名古屋クリア」
21日(日) 城北B会議/城南B会議
25日(木) 月集*
30日(火) 城南B司祭会議
6日(木) 常任司教委員会会議
17日(月) 終身助祭委員会(名古屋)
27日(木) 全国カトリック学校長・教頭合同研修会
4日(木) 常任司教委員会会議
16日(火) 臨時司教総会
19日(金) 司祭養成チーム会議
7月の炊き出し
木6日東山、13日布池、20日聖霊・南山・樹の会、27日城北橋
金7日喜望の会、14日南山、21日布池、28日一宮

告知板



福信館バザー

春まつりを終わって

福信館のバザーが隣の駐車場で4月21日に行われた。福信館、及び炊き出しの責任者であった竹谷基神父(神言会)が3月に亡くなり、炊き出しに関わっている私たちがで行う初めてのバザーであったので、うまく行くのか不安であった。天気予報では、当日は、70%の確率で雨ということも心配であった。しかし、いつも朝早くから手伝ってくれるタルクのお兄さんたちの協力で成り立ってきたテント張り、机

や椅子の出し入れなど、お陰で滞りなく準備することができた。コロナ禍で、しばらくの間でできなかった食事は椅子に座り、ゆっくり食べることができた。出店も、手作りケーキ、コーヒー、ちぢみ、から揚げ、カレー、うどん、赤飯、いなり寿司と、たくさんの協力があつた。リサイクルの衣類や雑貨品など、お楽しみ品々もあつた。いろいろな人々のお陰で大勢の人が集まり参加し、働くことの喜びを感じた。

あつた竹谷神父は天国から見ていると確信した。バザー終了まで雨も待つていてくれ、無事終了することができたことは、本当に感謝である。係りがみんな高齢で、これからの炊き出し活動に不安はあるが、竹谷神父が築いたものができるだけ守り続けていきたい。神父はいつも「炊き出しのない社会を目指す」と言っていたが、これだけ災害の多い日本では当面まだ炊き出しは必要だと思われる。みんな力で合わせてしばらくはこの活動を続けられることを願っている。(南山教会信徒 伊藤公子)

一粒会の集い(東海地区)

講演会と司教ミサ

日時 6月30日(日) 14:00(受付13:30)
場所 カトリック南山教会 名古屋市昭和区南山町1
講演会 「私の召命」アルディ・ヨハン神父(五反城教会主任 神言会)
ミサ 司式 松浦悟郎司教
交通 地下鉄鶴舞線「いりなか」下車 杖中交差点を南へ徒歩5分
主催 名古屋教区一粒会
連絡先 西村由美子 0561-54-9754
終了後、茶話会有り

【カルメル修道会日比野修道院、黙想企画】

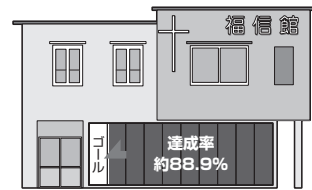
【旧約聖書から学ぶ キリスト教霊性】

日時 6月22日(土) 14:30~16:30
テーマ 神の悔いとエレミヤにおける新しい契約
持ち物 必ず聖書(旧約+新約)をご持参ください。
場所 カルメル会日比野修道院(日比野教会)、参加費無料
どなたでもご自由にご参加下さい。
担当 志村武神父(カルメル修道会)
問合せ 日比野修道院(052-671-1003)
以降の予定 7月20日(土)、9月21日(土)、10月19日(土)、11月16日(土)

【静修の集い】

日時 6月29日(土) 10:00~15:00
テーマ アビラの聖テレジアの祈り
講話担当 今泉健神父(カルメル修道会)
スケジュール 講話①、ご聖体顕示、昼食、講話②、ミサ、茶話会
参加費 無料(自由献金をお願いいたします)。どなたでもご自由にご参加ください。
持ち物 昼食(各自持参)、聖書(旧約+新約)
問合せ 日比野修道院(052-671-1003)

668件 35,573,214円
目標額 40,000,000円 (4月末現在)



郵便振替 00810-5-50605
加入者名 カトリック名古屋教区
通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

名古屋教区女子修道会 在俗会連盟主催 講演会

—シノドス総会第1会期を経て、第2会期に向けて歩む—

「独り歩きしないシノドスのために わたしたちも参加し共に歩む」

日時 7月28日(日) 13時30分から16時00分まで
時間割 13:30-14:30 プレゼンテーション
14:30-15:00 休憩
15:00-16:00 プレゼンテーション Q&A
会場 五反城教会 ホール
愛知県名古屋市東山区二瀬町27 ☎453-0837
TEL 052-412-3456 FAX 052-412-3457
名古屋営地下鉄 東山線 岩塚駅下車2番出口 徒歩7分
講演者 第16回 シノドス ファシリテーター Sr. 弘田しずえ(ベリス・メルセス会 会員)
参加費 一人 500円(五反城教会への献金とさせていただきます)
主催 名古屋教区女子修道会 在俗会連盟
連絡先 052-832-0434 (速水智恵美 聖霊奉侍布教修道女会 会員)

ご協力をお願い 講演会 プレゼンテーション 使用資料準備

講演会に参加され、資料を必要とされる方はカトリック中央協議会 HP、世界代表司教会議(シノドス)第16通常総会より『第1会期「まとめ」報告書—宣教するシノドスの教会』をダウンロード・印刷などして手元にご準備していただくようご協力をお願いいたします。